

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

各カリタスベースでは、この夏、様々な催し物に参加いたしました。今回は、札幌カリタス宮古ベース、カリタス大槌ベース、NPO カリタス釜石、カリタス米川ベース、カリタス石巻ベースからご報告いただきましたので、ご紹介します。

第19回 みやこわくわくまつり

札幌カリタス宮古ベース 今野 忍

宮古市社会福祉協議会主管のわくわく祭りが、9月7日宮古市総合福祉センターで秋晴れのもと開催されました。札幌カリタスも実行委員の一員として企画から参画し、ジンギスカンの提供を行いました。



会場にはジンギスカン、焼きそば、たこ焼き等の屋台や市民団体、児童のステージ発表、福祉相談、仮設住宅住民作品展示、宮古物産コーナー・復興支援グッズ販売など盛りだくさんのイベントとなりました。来場者もお昼には800名以上となり、札幌カリタスのジンギスカンもお昼過ぎには200食完売となりました。



被災地において3年目の夏

カリタス大槌ベース 片岡 英和

今年で大槌町へ赴いて3年目の夏となりました。1年目、夏に初めて訪れた時には、被災してまだ半年ということもあり、瓦礫しかない町並みでした。2年目の夏には、仮設でのイベントをまだ手探りながら行っていた記憶があります。今年は3年目、去年よりもいろんなところと張り切っていました。

全国各地、学生は夏休みに入りますので、学生ボランティアが多数訪れてくれるということもあり、ベースからの出し物などいろいろ考えたりもしました。今年行ったイベントは、学童・子どもセンターなど全部で7か所に上りました。すべてベースを訪れてくれたボランティア、また全国から寄せられた支援のおかげでできました。本当に感謝の一言に尽きると思います。

さて、その中でも今回はボランティアも参加した和野っこハウスとNPO「聖地の子どもを支える会」の企画で、毎年大槌を訪れている

イスラエル・パレスチナの子どもたちによる桜木町でのイベントの様子をお伝えします。

和野っこハウスでは、夕涼み会として7月26日午前10時からの開催でした。日差しが強く暑い中でしたが、会自体には100人前後の参加者が訪れました。露店も何店舗か出ており、職員が行ったかき氷・おでん販売などと、大槌ベースからは焼き鳥、焼きそば、また縁日などで協力できました。

食べ物はすべて100食分用意したのですが、正午を待たずして完売。もうちょっと用意すればとちょっとの後悔でした。敷地内にこじんまりとしたものですがステージも作成し、そこでいろんな出し物も行われました。郷土芸能として大槌町では知られたもの、虎舞や鹿子踊り、また金澤神楽踊りなども。また地元婦人会のフラダンス、職員（ベーススタッフも一人）による太鼓演奏、そしてさらにはボランティアの若者によるダンス、かつて若者だったご婦人のカラオケなど、暑さをふき飛ばすような活気あふれる夕涼み会となりました。

イスラエル・パレスチナの子どもたちによるイベントは、桜木町福祉会館で行われました。当初、現在の国の状況から今年は中止になるのではないかと考えられていましたが、子どもたちは国など関係ないくらい仲が良く、すべてのボランティア活動をやり遂げました。



福祉会館では、8月10日18時開催で虎舞、鹿子踊りも交え、ボランティアからはソーラン節、「花は咲く」の合唱などが行われ、それに合わせプロのシェフによるパレスチナ料理もふるまわれました。気持ちのいい笑顔が皆さんの顔に出ていました。



今年の夏は、かかわっているすべてのところで本当に腹の底から出ているんだなという笑顔に出会うことが出来ました。それだけ時間が経っているということだと思います。仮設住宅使用の期限も延長また延長で、2016年までの期限が決定したといひます。人々が少しでも心休まる時間を過ごすために、これからも被災者の方のお手伝いを続けていきたいと思ひます。

2014年夏祭り

NPO 法人 カリタス釜石 千田 栄

釜石から、2つの夏祭りについてご紹介いたします。

8月6日、カリタス釜石では、新ベース建設後初めての夏祭りを行いました。約50人の近隣住民の方々が来訪され、暑い夏の日を過ごしました。



このお祭りは、白百合学園中学校・高等学校とカリタス釜石の共催で実施。縁日、工作、かき氷、飲食の4つのブースを設けました。平日の日中の開催、30度を超える気温ということで人が集まるかどうか私の内心はハラハラ。少ない人数かと思ひきや、里帰りのご家族も多く来場され、ホッとしました。屋内の厨房・食堂設備を使つての飲食は、冷房が効いた中でしたので来訪者の皆さんには好評でした。

白百合の中高校生たちは、手作りミサンガの材料を持参。小学生、大人の方々に教えました。色合いの美しい糸やビーズを揃え、わかりやすく説明している姿から、一生懸命考え、準備してきた様子が伺えます。

午後の部には、フラダンス教室を設けました。ハイビスカスの髪飾り、ブレスレットを用意し、南国の雰囲気を感じ出しスタンバイ。

ところが、人が来ない…。おかしい…。釜石の人は踊りが好きなはずと思ひながら参加者を待っていました。フラの先生とお話をしながら待っていると、5人の方が来ました。



すると、皆さん、好みの髪飾りをつけやる気満々です。先生が、ゆっくり丁寧に振付の意味を解説して下さいました。おかげでわかりやすく一緒に踊ることが出来ました。膝を少々かがめ、上半身は真っ直ぐに、けれども手や指先はゆったりと流れるように、微笑みを忘れずに。全身運動で身体に効果あり。皆さん、「難しいー！」と言いつつ、笑顔で楽しそう。見学されていた男性群も自然と体を動かし、総勢15名がフラを踊っていました。その光景に先生もびっくりして、感動されていました。心から楽しんだ参加者の皆さん。弾ける笑顔がとても素敵でした。

8月11日は、唐丹町の夏祭りでした。地元有志が実行委員の「唐丹夢あかり」と太平洋沿岸複数箇所での花火打ち上げ「LIGHT UP NIPPON」の同時開催。追悼と祈りを込め、唐丹の人々が集う希望の祭り。



唐丹夢あかり

唐丹は、釜石の南側沿岸に位置する町で、東日本大震災で被害を受けた所です。カリタス釜石は、子ども縁日でお手伝いをさせていただきました。その日は午前中に大雨警報が出ており、開催が危ぶまれましたが、午後5時には解除され花火も上げることができました。これはお恵みというか、唐丹の方々も主催者側も誰もが感じたであろう喜ばしい事象でした。

「スーパーボールすくい」に一生懸命な子。いちご、ブルーハワイ、メロン味のミックスしたかき氷をほお張る子。友達や家族といつもと違う時間を楽しんでいました。また、唐丹中学校生徒による元気なソーランの踊り。自ら綿あめ器を持参し、ふるまう先生。天に届くように太鼓を打つ演奏者。唐丹を愛する人々の姿を見ることが出来ました。カリタス釜石からも10人が手伝い、その日の活動を終えたボランティアも唐丹に駆けつけた夜でした。

こうして、夏祭りも大盛況のうちに終わりました。中高生たちは、直に地元の方とふれあい、言葉をかわし、良いひと時を過ごすことが出来ました。笑顔に隠された体験に思いを馳せながら、また、現実に直面しながらも少しずつ歩んでいる多くの釜石の人々にエールを贈りたい心境になった2つの夏祭りでした。



米川ベース恒例バーベキュー

カリタス米川ベース 向井 清子

南三陸町での支援活動のため、米川にベース拠点を置いてから、4回目の夏がやってきました。今年で三回目となるバーベキュー大会が、8月20日（水）に、米川ベース裏庭にて夕方から開催され、総勢70名というたくさんの方にお越しいただきました。

バーベキューの開催日程が決定され発表されると、スタッフの皆も急に慌ただしくなります。購入するものの洗い出し、招待者数の再検討、購入者を割り当て、案内状添付の回覧板を回すなど、日々のベース活動の隙間にスタッフ全員がそれぞれの役割を果たしていきます。「大量にジュースを買ってきた。重かったあ。」「お酒と、お肉の予約取りました。」「花火を購入すれば子どもたちが喜ぶね。」「来訪者数の想定は何人くらいだろう。」そんな風に、食材ほか、様々な準備物がメモされたリストに、準備が済んだものから次々と取り消し線が引かれ、すべての項目がチェックされた頃、バーベキュー当日のその日が期待とともにやってきます。

いよいよ始まったバーベキュー当日、とても楽しく寛いだ雰囲気でした。美味しいお肉とお酒に、焼きそば、フランクフルト、南三陸のホタテ、スイカのデザートに食後のコーヒー、今年からは、ちょっと洒落た音楽もBGMとして流れ、静かな米川の夏の夜が少し華やかな雰囲気になったかもしれません。まるで、ビーチにいるような…

米川ベースと関わりのある方々が、大勢来訪される「感謝祭」でもあるため、日々の慌ただしさの中でお会いすることができない方との、久しぶりの再会に交流など、たいへん嬉しい場となりました。

バーベキューの終わりが近づくと、みんなで集合写真を撮ります。みなさん笑顔です。

年々、たくさんのお客様がお見えになっていますが、今年も本当にたくさんの方がお見えになり、来訪者数は増加傾向にあります。これもまた、日々のベース活動の中で結ばれ、繋がれた「ご縁」が、新しく、そして少しずつじっくりと確かに広がっているのだと、たくさんのお客様の顔を拝見しながら、感慨深い気持ちになりました。



なお、参加された方々は次のとおりです。

米川一区のみなさま、カリタス釜石、石巻ベース、原町ベース、外国人支援センター、仙台教区サポートセンター、障がい児支援「にこまーる」、南三陸町災害ボランティアセンター、支援活動を通じて知り合った個人ボランティア、活動受入れ先となって知り合うこととなった被災者の方、そして米川ベースに滞在されていたボランティアのみなさんなど、本当に大勢の方にご参加いただきました。ご来訪いただき、またご尽力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

みなさまとのご縁を大切にしながら、来年も再会できますことを楽しみにしております。

末広町夏祭りに参加して

カリタス石巻ベース 中村 愛

8月17日、ベースがある末広町で夏祭りがありました。振り返れば、6月8日と8月10日に行われた公園の草刈から夏祭りの準備が始まっていたのだと思います。2日とも小雨の降る中での作業でした。

また、祭りの時の天気は曇り時々小雨。夏祭りと小雨は切っても切れない縁があるのだろうかと思いました。

今回の末広町夏祭りで、カリタス石巻ベースはフランクフルトと玉コンの出店で協力しました。事前に町内会の方がベースに材料を届けてくださり、当日ベースで玉コンを味付けし、ボランティアと一緒にフランクフルトを会場で焼きました。



模擬店開始時間になり、いらっしゃったお客さんに食品を提供しました。初めはどこに何があるか分からず戸惑う場面もありましたが、慣れてくると本当のお店みたいに手際よく提供することが出来ました。

お店の手伝いをしていた時、「カリタスの人」を呼ばれて振り向いたら、焼き鳥を焼いていた方が焼きたての焼き鳥を一本ずつくださいました。他にもパンや果物の差し入れをいただき、町内の方々と同じ場所で活動するからこそ体験できる人との関わりの温かさを感じました。

夏祭りでは、模擬店の他にスイカ割、くじ引き、ラムネ早飲み大会があり、それぞれに参加すると景品がもらえる仕組みになっていました。景品はお菓子、ぬいぐるみ、おもちゃ、石鹸、お米など、たくさんの物が準備されていました。これらは、教会の方々からご支援をいただきました。

景品をもらって喜ぶたくさんの人の姿を見ながら、多くの方々の思いがあってお祭りが盛り上がっていることを感じる事が出来ました。

そして、その景品を目指して（笑）カリタスのビブスを着た私が、それぞれのゲームに参加しました。特にラムネ早飲み大会は石巻ベース7人中5人が参加。よーいドンで、5メートル先に準備してあるラムネを取り、早く飲むよう努力したものの5人中2位でした。黄色いビブスを着てお店をするならまだしも、くじを引いてスイカを割り、踊りを踊ってカラオケを歌う。初めは仕事で来ているからと思っていたせいか催し物に参加することに抵抗を感じていました。しかし、次第に打ち解けてくるのを感じました。それぞれの催し物に参加することで今まであったことがない地元の大人や子どもたちと関わる事ができました。

最後はお待ちかねの花火。大きな祭りのような打ち上げ花火はありませんでしたが、子どもから大人まで、花火を持って楽しんでいました。お祭りの規模としては小さなものでしたが、みんなで楽しく過ごせたひと時でした。

この祭りを通して、町内の方々の協力体制の強さを感じました。それとカリタスが町内会の一員になっているのを感じました。これからも町内会のニーズに応えていく支援が出来ると同時に、近くでまた遠くで支援して下さる方々との架け橋になっていくことが出来るよう活動を続けて行きたいと思いました。



カリタス広島災害サポートセンター設置

この夏、全国各地で局地的な大雨が多発しましたが、特に8月20日未明に発生した大雨による土砂災害で、広島市内では甚大な被害となりました。そこで、カトリック広島司教区では、8月22日に「カリタス広島災害サポートセンター」を立ち上げ、募金とボランティア支援の受付を行っています。

◇ホームページ <http://caritashiroshima.blogspot.jp/>

◇募金受付口座 郵便振替口座番号：01310-0-16760

加入者名：カトリック広島司教区

※通信欄には「広島土砂災害支援」とお書きください。

◇問合せ先 広島司教区本部事務局

電話 082-221-6017 (月～金 9:00-17:00)

また、カリタスジャパンも緊急募金の受付を行っております。募金は、カリタス広島災害サポートセンターの支援のために活用されます。

◇募金受付口座 郵便振替口座番号：00170-5-95979

加入者名：カリタスジャパン

※通信欄に「広島土砂災害支援」、インターネットサービスで募金の際は、ご依頼人番号の欄に「11503」とご記入ください。

皆様のお気持ちを寄せていただきますようお願いいたします。

《緊急のお願い・ボランティアさん急募》

大学生が学園に戻ったとたん、各ベースは深刻なボランティアさん不足です。皆さまのご協力をお願いいたします。